『わたしは祈りました』（ルカの福音書 22 章 31-32 節）2023.1.22.

＜はじめに＞ この箇所は、イエスが十字架に架かられる前夜、最後の晩餐の席でのことです。夜明けまでに、シモン・ペテロがイエスを「知らない」と三度言う予告(33-34)に添えられた、ルカ独自の記事です。激動の一日を前に、主がシモン・ペテロに語られた言葉に注目します。

Ⅰ　シモン、見なさい。(31)

①サタンが願って(31)

サタンは目に見えない霊的存在です。彼はイエスの周囲に付きまとい、度々ちょっかいを仕掛けています。サタンは誰に願ったのでしょう。しかもそれが聞き届けられたのです(ヨブ 1・2 章)。しかし、サタンが願うということは、相手が主権者であると暗に認めています。

②麦のようにふるいにかける(31)

籾を殻と実に分け、殻は捨て、実は蔵に収めます。「あなたがた」とはペテロを含むそこにいた弟子たちです。サタンは彼らを試み揺さぶり、イエスが愛された彼らの真価を明らかにしようとします。この厳しい現実をイエスは見て、「見なさい」と警告を促されます。

③私たちは見なければならない

サタンは今も試みる者として近づき、私たちを揺さぶります(マタイ4:3)。彼はこの世の権威者の如くに振舞い、私たちを悩み苦しませ、主イエスから引き離そうと躍起です。この事を主イエスは予め示して、私たちも目を開いて「見なさい」と言われています。

Ⅱ　わたしは祈りました(32)

①イエスは祈られた(32)

サタンの執拗な要望と悪略に対し、イエスは祈りをもって対抗されます。「しかし」はサタンの策略を覆す権威の表れです。イエスの祈りは既に捧げ終えられ、完了しています。神を信じて祈り求めるものは何でも受けられるのが、神の領域のルール・常識だからです。

②信仰がなくならないように(32)

こんな時、イエスに何と祈ってもらいたいですか。失敗せずうまく事が進むようにでしょうか。サタンでさえ、神が主権者でその絶大な権威を認め、それに屈せざるを得ません。失敗・裏切り・挫折・堕落などの中でも、なお信仰の火が消えないようにと祈られたのです。

③それでも「はい」と言う(ヨハネ 21:15-17)

この後、イエスはペテロの裏切りを予告され、そのとおりになりました。しかし、主は彼に現れて語り掛け、彼は「はい、主よ。…あなたがご存じです」と答えます。彼の信仰が息吹き返しました。主イエスは今も私たちのために執り成してくださっています(ヘブル 7:25)。

Ⅲ　ですから、あなたは(32)

①あなたは立ち直る(32)

「ですから」は確信に満ちた言葉です。イエスは彼を手放さず、落胆・自責・諦め・逃避から回復されます。そうなるよう主は働き掛けます。十字架の死から復活された主は、敗北者・脱落者さえも立ち直らせる救い主、贖い主です。

②兄弟たちを力づける(32)

イエスがペテロのために祈られました。他の弟子たちのために祈らなかったのでしょうか。ペテロの回復は、同じ立場・状況の者たちへの先駆け、希望です。その体験者が、イエスにしてもらったように彼らに関わり、引き上げる役割を担うのです。

③主が描かれる道筋を見よう

試練による敗北など無い方が良いのですが、イエスはこの世の現実を私たちに包み隠さず示されます。しかし、それは敗北では終わらず、回復と神の絶大な力とあわれみが明らかにされる機会ともなります。この御方こそ、私の主、救い主と仰ごうではありませんか。

＜おわりに＞ サタンは私たちをイエスから引き離し、落伍者にしようと躍起になってふるい落としにかかります。しかしイエスは私たちの救い主、たとえ揺るがされても立ち直らせ、力づけて、神の国を建て上げられます。これこそ、教会とクリスチャンの凄みではないでしょうか。(H.M.)